

イラクの子どもと福島の子どもを助けたい。

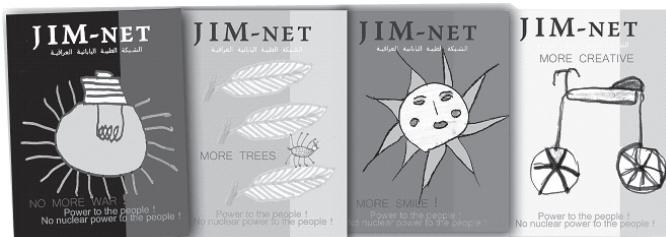
JIM-NET代表理事：鎌田 實

国際エネルギー機関が、20年後、イラクが産油大国になると発表した。もともと石油の埋蔵量は世界第2位と言われてきた。しかしイラク戦争後、油田の採油所が戦争で傷つき、十分な採油ができなくなってしまった。現在、世界シェアで3%ほどである。徐々にイラク自身の産業復興が始まられている。2020年までには7%、2035年までには9%まで増える見通しということだ。いずれの時点でも世界最大の伸びで、世界の増加分の半分近くをイラクが占めることになる。イラクの石油がたくさん採れることは、世界の石油の相場を抑えることになる。

しかし、イラクの人々の生活は、いまだに停電が続き、病院では薬が不足、病院にもけない貧困層を保護する福祉制度もない。だから、日本のNPOグループがイラクの子どもたちを助けていることが大事なのだ。

イラクの子どもたちの救援活動を始めて8年が過ぎた。JIM-NETでは、スタッフもアルビルに常駐させ、積極的な救援活動を行なっている。どんな国も自分たちの国が傷ついているとき、自分たちの国の子どもを守ってくれる支援は、忘れられない感謝につながる。

戦争で傷ついたイラクの子どもを助けたい、と純粋に思ってやってきたことであるが、同時に、ぼくたちの子どもたちを守る救援活動が日本とイラクの信頼関係を築いてきたように思う。ぜひこのことをたくさんの人に理解していただき、イラクの子どもを救うこと、そして福島の子どもを救うこと、ほんの一部であるが、シリアの難民キャンプの支援もしていきたいと考えている。



今年もバレンタインのチョコレートの募金活動を行ないます。昨年に比べてさらに2万個増加しました。福島の子どもたちの支援も続けます。子どもたちを助けるために、ご支援をお願い致します。

みなさんがJIM-NETを応援してくださり、JIM-NETがイラクの子どもを救うことを通して、中東地域の信頼関係の構築に役立つと信じています。まだまだ20年は石油のエネルギーが世界で必要です。僕たちの支援しているイラクを中心に、シリアやイラン、パレスチナなどアラブ一体の地域が平和になることが、日本の生命線、石油をアラブから運んでくる上でも、とても大事です。イラク戦争のように、武力で石油を奪い、犠牲者を出してはいけません。

僕たちJIM-NETは、子どもたちの命を守る活動を通して、この地域に平和をもたらしたいと考えています。大きな構想のもとに、子どもたちを助けています。ぜひご理解いただき、JIM-NETへの熱い応援をよろしくお願いします。たくさん的人にツイッターやブログや口コミでお知らせしてください。



チョコ募金が始まります！

JIM-NET事務局長 佐藤真紀

福島では、昨年の震災後、原発事故も収束せず、除染の効果も期待したほどではなく、子どもたちをどう放射能から守るのかが大きな課題になっています。一方で、政府は脱原発という方針を打ち出しながらも、大飯原発の再稼働が実施され、大間原発の工事が再開されるなど、「命より経済？」に流れていくのか懸念されています。

そしてイラクに目を向けると、日本は、国益（日本の経済）のために、つまりは石油の確保のために、アメリカの「イラク攻撃」を支持。来年で戦争から10年がたちますが、ようやくイラクの石油が日本の市場にも入り始めました。しかし、イラク

市民は、治安の悪化や停電に苦しみ続けています。劣化ウラン弾の放射能汚染に関しても、測定もほとんどされずに、除染の除の字も見られません。がんになっても、病院の医療体制は不十分で死んでいく子どもたち。この現状に、日本は大きな責任をもたないといけません。

しかし、自分たちは、放射能はいやだから原発やめるけど、儲かるなら海外に売っちゃえ。原発を止めたら、当面は火力に頼るわけで、じゃあ、戦争してエネルギーを奪い取ればいいじゃない。どうせ戦争はアメリカがやってくれるから、みたいな、「悪」の方向へ向かっているような気がします。（裏面へ続く）

おっと、そんなに、悲観的に考えなくても、人間、もっと良心的なんじゃない?

あしたは、きっと明るいよ、そう思うためには、もうちょっと、しっかりと現状を見て考えないといけません。というわけで、今年のチョコ、「もうチョコと」をデザインしました。

今年のチョコ募金の絵としてメインに選んだのがバスマラのヌールちゃん。9歳。ホジキンリンパ腫でイラクで手術した後化学療法を続けているが、放射線治療が必要だという。バスマラでは放射線治療を受ける病院がほとんどなく、バグダッドはいつも満員で、むしろ、国境を越えてイランに連れて行く方が近い。一人あたり50万円ほどかかるが、JIM-NETでは毎年5-7名の患者を支援してきた。昨年6月、震災支援で手いっぱいだったが、皆様の支援のおかげで、イランに連れて行って放射線治療を受けさせることができた。核兵器の開発疑惑で、たたかれているイランであるが、放射能を使って国際貢献している事実も知つてほしい。

約一ヶ月イランで治療を受けたが、その後の治療も順調だ。イランで暇つぶしに描いた絵が面白く、多くの人に希望をあたえるだろう。何点かを組み合わせてデザインした。

脱原発をイラクから考えてみた。もっと太陽エネルギーをつかえればいい。もっと緑があれば、原発に頼らずにCO₂の問題だって解決できる。ちょっと自転車に乗って通勤するような工夫があれば、エネルギーは節約できる。そして、やっぱり戦争はだめだということ。

ぜひ、チョコを食べて、「あした」と一緒に作ってください。引き続きご支援よろしくお願いします。



チョコ募金のチョコを持つたヌールちゃん

チョコ募金ができるまで

～チョコ募金担当よりご挨拶～

齊藤信一 JIM-NETチョコ募金担当



前回（第7回）のチョコ募金14万個では、皆様ご協力本当に有難うございました。おかげさまで予定より早く終りました。

私たちの手違いでお客様にダブつてお送りしたケースがありました。後日集計して発見し、即お詫びのお電話をしたところ「丁度良かったもう一口申込しようと思っていたの！以心伝心ね」と有難いお言葉。又別の方はこちらのミスにも関わらず「私の申込方法が悪かったのかしら？」と尋ねられ、「大丈夫よ。差し上げたいお友達があるので来年金が入ったら振込みますから安心して」と又々有難いお言葉。皆様本当に有難うございました。

さて今回のチョコ募金の近況ですが、チョコ缶のデザインは「今回も素晴らしいデザインで日本の皆さんに元気を出して欲しい」とイラクの子供たちがまたまた頑張りました。そのデザインで原版を作成し、薄い鉄板に印刷したのち、下請けの製缶工場に届きます。缶工場では今年一部が自動化されました。印刷された鉄板から、プレス機により2個/秒の速さで缶の本体が出来上がってきます。精度の高い缶が出来上がってきました。試しに出来上がった缶本体を抜き取り蓋をしました。ピタッと締まり緩すぎず、又開けるのに無理な力はいりません。これならお年寄りの方も無理なく開けられ、運搬中に蓋が開く事ありません。日本の職人さんはすごい。本当にすごい。この出来上がった缶をひとつひとつ目視確認して缶の完成です。

この缶が津軽海峡を渡り北海道の六花亭さんに届き、チョコが詰められ、又津軽海峡を渡って発送を依頼している障害福祉就労事業所「はなみずき」さんやJIM-NET事務所に届きます。チョコ缶に携わる皆さま、この仕事を有難いと仰って下さいます。

前回のチョコ募金は、お孫さんが生まれた祖母様の内祝品・結婚式参列者へのお礼品・定年退職者の職場への感謝品・入院お見舞いのお礼品・ご夫婦でお互いに申し込まれお互いにプレゼントされたご夫婦等、なんと奥の深いチョコレートなのでし

よう。今年はどんな出会いが待っているのでしょうか？

今回は前回より2万個増やし16万個を予定しております。この缶を積み上げると1,600m。エッ！あのスカイツリーより高い！（缶の厚みを1cmとして）

一抹の不安がありますが前回以上に頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

今年で第8回目となるチョコ募金。ハート型のチョコ10枚を詰めた丸い缶のタイプにしてから、今年で4回目になります。このチョコレートの缶ができるまでには、たくさんの人が協力してくれています。今回はそのうち、缶の製作や印刷、チョコレート会社とのやりとりを仲介してくださる古茂田工業様よりメッセージをいただきましたのでご紹介させていただきます。

今年も超美味しいハートの形をしたチョコレートが生まれました。

私たち古茂田工業は、チョコレートを入れる容器（缶）製造をお手伝いさせて頂き、今回で早くも4回目を迎えました。今回は缶にまつわる話としまして、印刷の手順についてご紹介させていただきます。

イラクの子供が書いてくれた素敵な絵をスチール平板にオフセット印刷をするのですが、この印刷は1色刷る度に、150°Cの焼き釜に入れ、15分程、焼き付けして乾燥させます。4色なら4回繰り返し焼かれるので、どうしても微妙に色が変色してしまいますが、JIM-NETのスタッフの方に立ち会っていただき、ひとつひとつ確認ていきます。今年も、校正の段階からJIM-



NETの皆様と緊密に連絡をとって確認していくことで、素敵なイラストが印刷できました。

皆さまどうぞお楽しみに。

古茂田工業株式会社
久野弘明

印刷の発色度合いをJIM-NETスタッフも立ち会ってチェック